

肥満の有無に着目した尿ナトリウム/カリウム (Na/K) 比と高血圧有病率との関連

小暮 真奈

東北大学東北メディカル・メガバンク機構

【目的】 演者らはナトカリ計 (OMRON Healthcare, HEU-001F) を用いた尿Na/K比測定を宮城県登米市の特定健診に複数年導入した結果、健診会場での尿Na/K比測定が地域の血圧に好影響を与える可能性を報告した。しかし受診者全員への尿Na/K比測定が難しい状況も考えられることから、測定すべき者の優先順位を検討するために特定保健指導対象の基準となる肥満の有無に着目して尿Na/K比と高血圧の関連を検討した。

【方法】 2017～2019年度の登米市の特定健診受診者を対象とし、肥満の有無別 (カットオフはBMI 25.0kg/m^2) による尿Na/K比と高血圧 ($\geq 140/90\text{mmHg}$ あるいは高血圧通院中) の関連を多変量ロジスティック回帰分析で検討した。また尿Na/K比の高血圧に対する集団寄与危険割合 (PAF) も算出した。

【成績】 初年度の尿Na/K比、収縮期血圧の平均値は5.41、132.0mmHgであった。全ての年度において肥満の有無に関わらず尿Na/K比と高血圧の正の関連が認められた (傾向性のp値 < 0.01)。尿Na/K比の高血圧に対するPAFは肥満者 (6.9～16.0%) と比し、非肥満者 (8.9～19.7%) で大きい傾向が観察された。

【結論】 肥満の有無に関わらず尿Na/K比と高血圧の正の関連が観察されたが、尿Na/K比の高血圧に対するPAFは概ね非肥満群で大きかった。特定保健指導の対象とならなかった非肥満者を対象に尿Na/K比測定を行い、減塩・増野菜を意識づけることで高血圧予防につながることを示唆された。